

みんなで作ろう！ セーフコミュニティちちぶ

高齢者の安全対策委員会 活動報告



発表者：委員長 多比羅幸男
所属：秩父市老人クラブ連合会

高齢者の安全対策委員会設置の背景

①秩父市では、65歳以上の高齢者の増加が著しく、高齢化率が28パーセントを超えている。将来的にも高齢化が進むことが予想される。

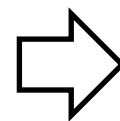


図1
図2

②単身高齢者が増加している。

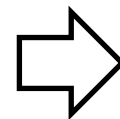


図2

③高齢になるほど救急搬送発生率が高い。

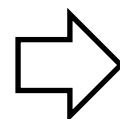


図3

④特に、「転倒・転落」により救急搬送されるケースが多い。

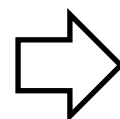


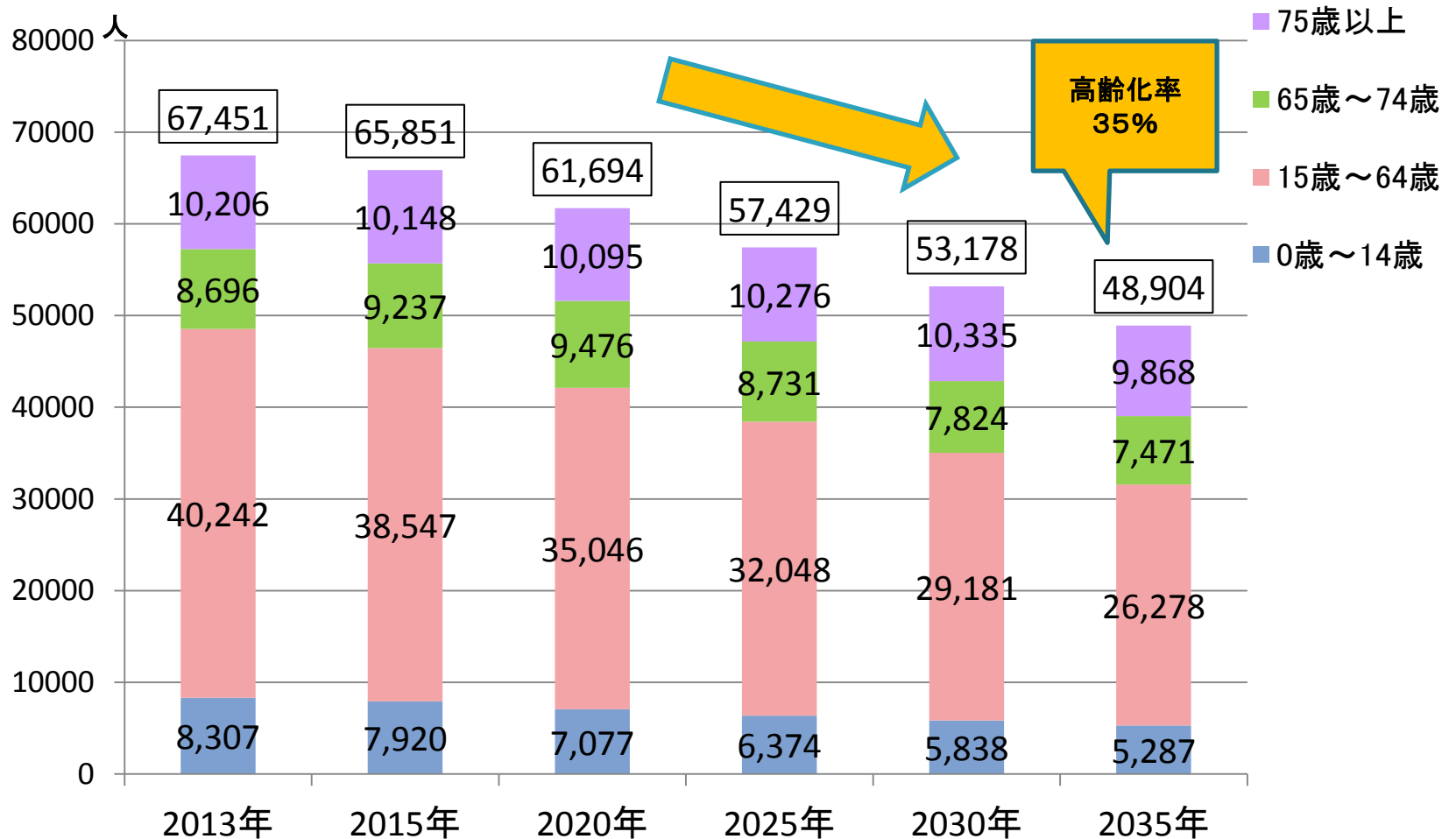
図4

対策委員会設置の背景 ①

人口の減少と超高齢化社会の到来

秩父市の将来推計人口

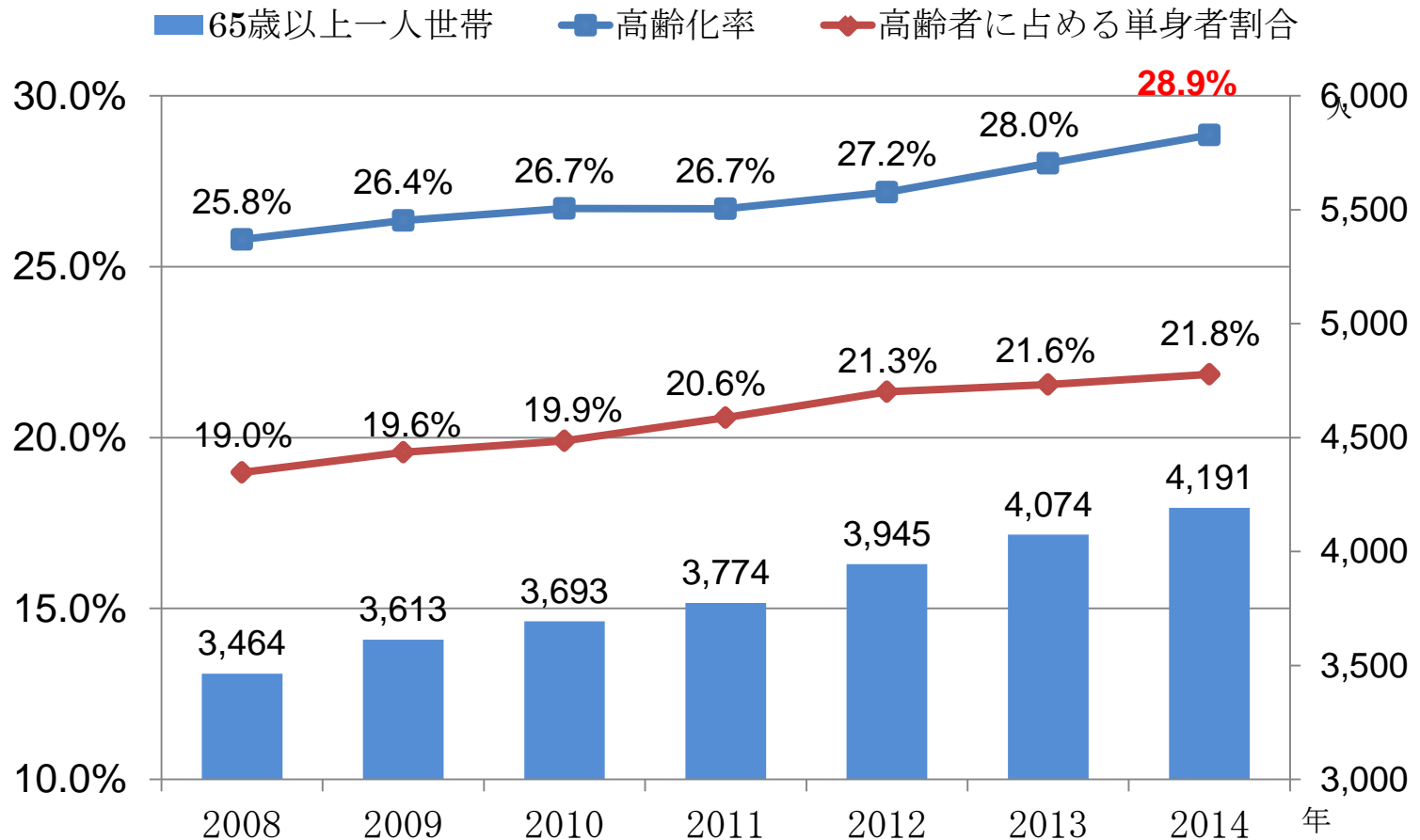
図1



対策委員会設置の背景 ②

- ・65歳以上の高齢者の増加が著しい。
- ・高齢化率は約29%。
- ・高齢者のうち単身者の割合は、約22%以上

図2



対策委員会設置の背景 ③

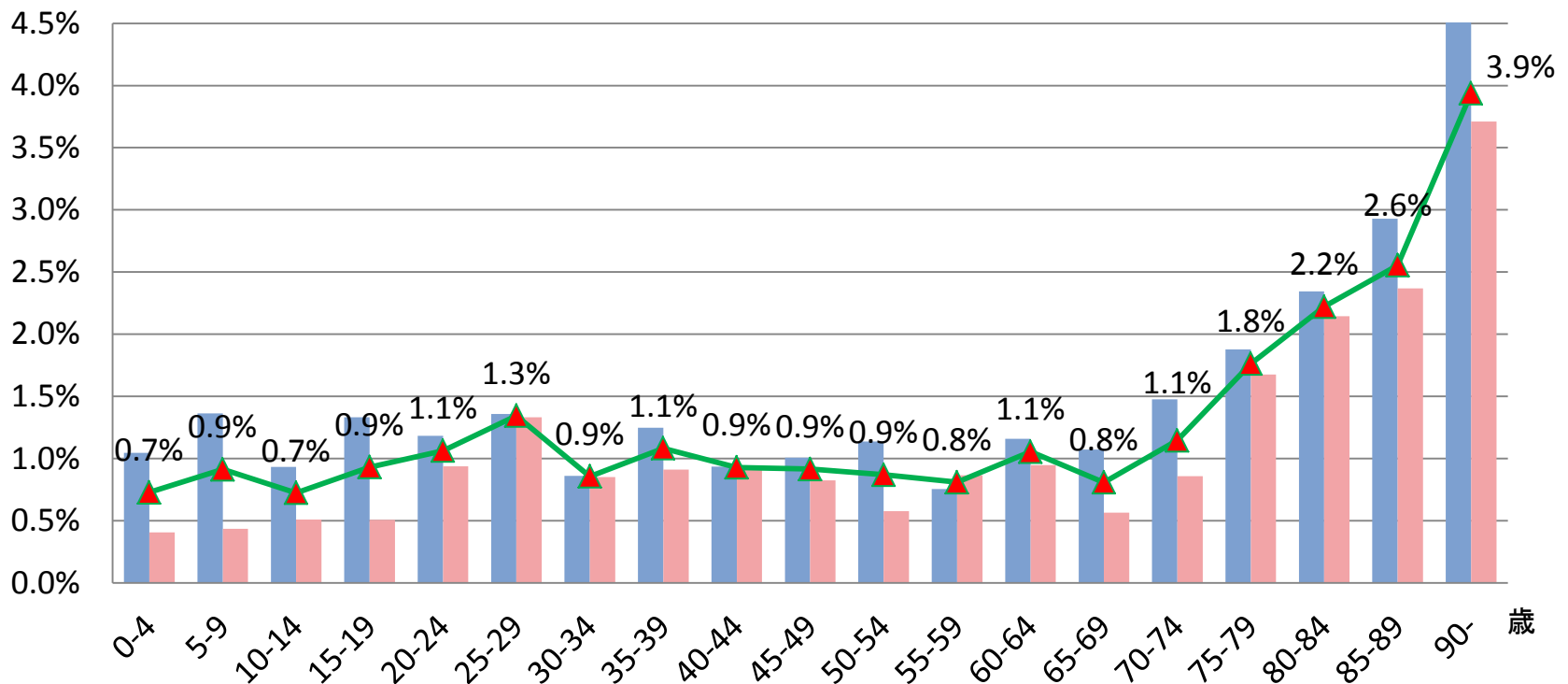
- ・「救急搬送発生率」は、高齢になるほど高くなる傾向にある。
- ・75歳以上では発生率が特に高い。

図3

救急搬送の発生率 (年齢構成別)

n=777人
男419人
女358人

■ 男
■ 女
▲ 合計



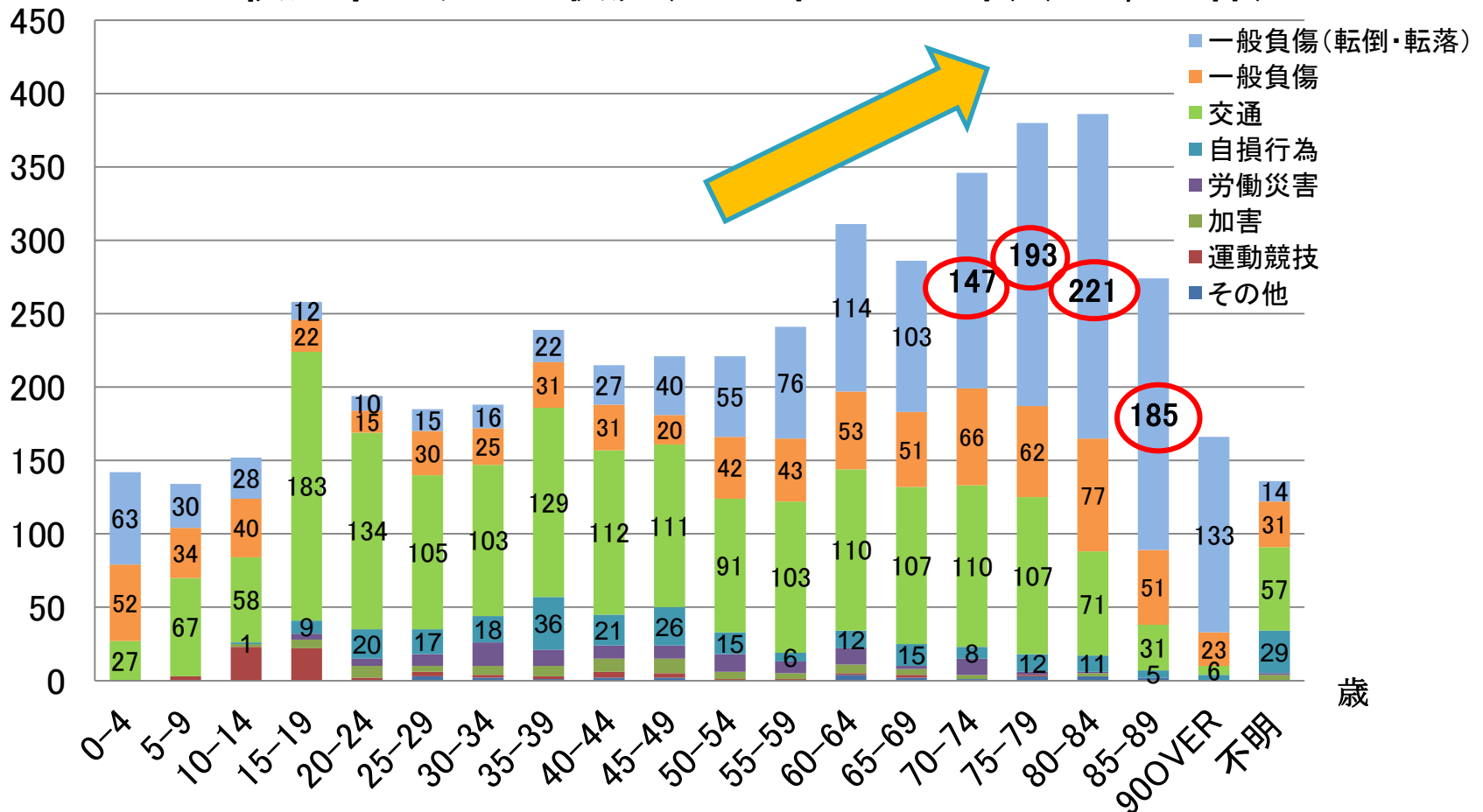
出典:救急搬送データ(2012年)

対策委員会設置の背景 ④

- ・ 高齢になるほど搬送される件数が多い。
- ・ 「転倒・転落」により搬送されるケースが多い。

図4

秩父市のケガの状況(2008年～2013年)(n=4,675件)



出典: 救急搬送データ

高齢者の安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等 (10)	秩父市老人クラブ連合会	2名
	秩父市在宅福祉員連合会	1名
	秩父市町会長協議会	2名
	秩父市民生委員・児童委員協議会	1名
	秩父市健康推進員連絡会	1名
	秩父市社会福祉事業団	1名
	秩父市社会福祉協議会	2名
行政機関 (6)	秩父市(社会福祉課、高齢者介護課、包括支援センター、地域医療対策課、公募職員)	6名

高齢者の安全対策委員会の経過①

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2013年 8月19日	セーフコミュニティの概要説明
第2回	2013年 9月27日	第1回ワークショップ(主観的な課題の抽出)
第3回	2013年10月31日	第2回ワークショップ(データから見る課題の議論)
第4回	2013年12月17日	重点課題の選定、方向性の検討
第5回	2014年 1月21日	重点課題の選定、方向性の検討、対象の設定、取組みの議論
第6回	2014年 3月25日	重点課題に対する取組みの検討
第7回	2014年 4月25日	現地指導リハーサル
現地指導	2014年 5月28日	専門家による現地指導(活動報告)

高齢者の安全対策委員会の経過②

回数	開催日	主な会議内容
第8回	2014年 7月31日	取り組みの具体化についての議論
第9回	2014年 8月11日	現地指導の講評について白石先生から説明 (合同対策委員会)
第10回	2014年 9月24日	具体的な取り組み及び成果指標の検討
正副委員長 会議	2014年11月26日	各対策委員会の進捗状況の報告、情報共有
第11回	2014年12月16日	課題と取り組み、成果指標の検討について
第12回	2015年 2月 4日	取り組み及び成果指標の検討
第13回	2015年 3月 19日	取り組み及び成果指標の検討
第14回	2015年 4月 24日	取り組み及び成果指標の最終検討
第15回	2015年 6月 16日	現地審査の報告資料の検討

秩父市の現状（地域診断の結果）

【ワークショップによる主観的な意見】

- ・高齢者の自転車のフラツキ走行
- ・高齢者の道路横断の手前勝手な渡り方
- ・思ったほど足が上がっていない。
- ・シルバーカーの高齢者が下を向いて、赤信号に気づかず、渡ってしまった。
- ・町会のスポーツサークルなどに参加している方は、同じ方ばかり。
- ・交通ルールを守らない高齢者が多い。

【データからみた客観的な危険】

- ・高齢化率が高い。
- ・一人暮らしの高齢者世帯が増加している。
- ・高齢者の救急搬送発生率が高い。
- ・高齢者の救急搬送は、中等症以上の割合が高くなる。
- ・高齢者の救急搬送の要因は、「転倒」・「転落」が多数を占めており、特に 自宅での件数が多い。
- ・転倒について不安と感じている高齢者が多い。
- ・支援を求めている高齢者が多い。

図1、2

図2

図3、4

図5

図6、7

表1-1、1-2

図8-1、8-2

表2

地域診断① ワークショップでの検討

ワークショップを2回開催し、主観的な危険及びデータから見た危険について意見を出し合いました。



各委員が数多くの意見を出し合いました。



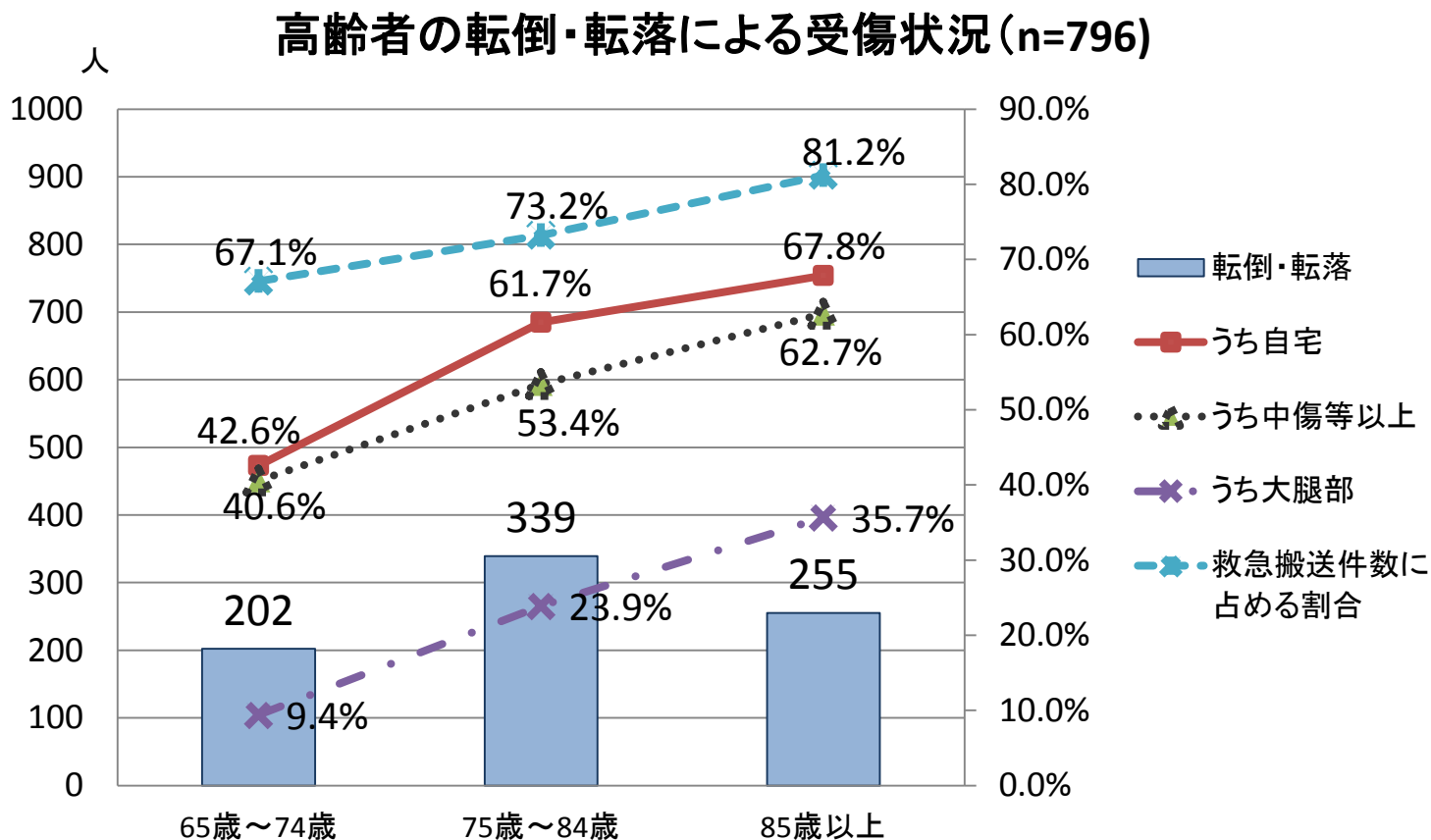
ワークショップでの検討事項を他の委員会の皆さんに発表し、情報共有しました。



地域診断② データから見た客観的な危険(1)

- ・「転倒・転落」による搬送では、65歳以上の高齢者が搬送されるケースが多い
- ・75歳以上の高齢者では、自宅で大腿部に受傷する事例が多く、また重症化する割合が高い。

図5



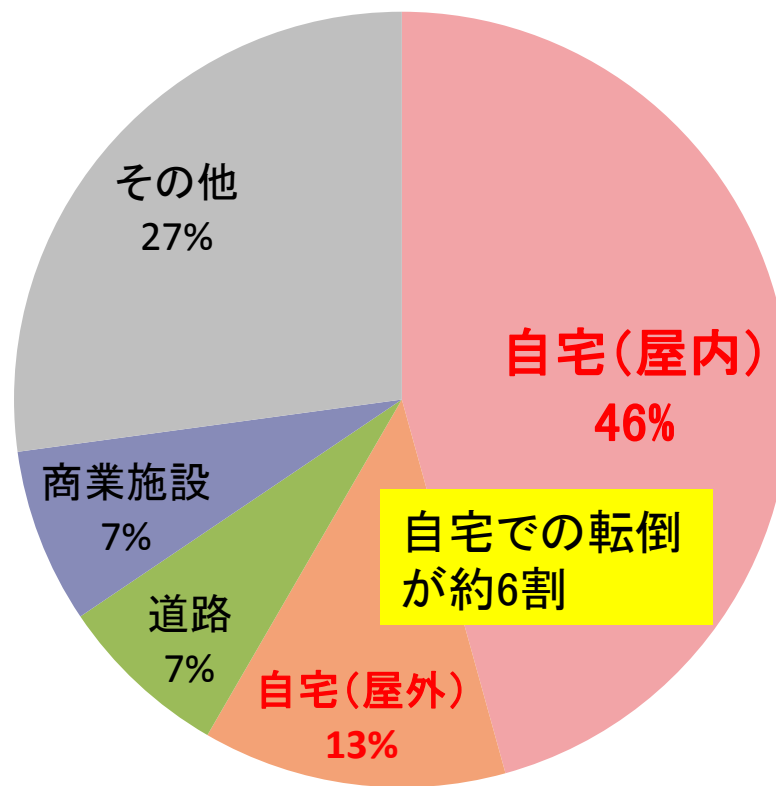
出典：救急搬送データ(2008年～2012年)

データから見た客観的な危険(2)

・受傷場所は、「住居」が6割、特に、「自宅(屋内)」が多い。

高齢者の転倒場所(n=987件)

図6

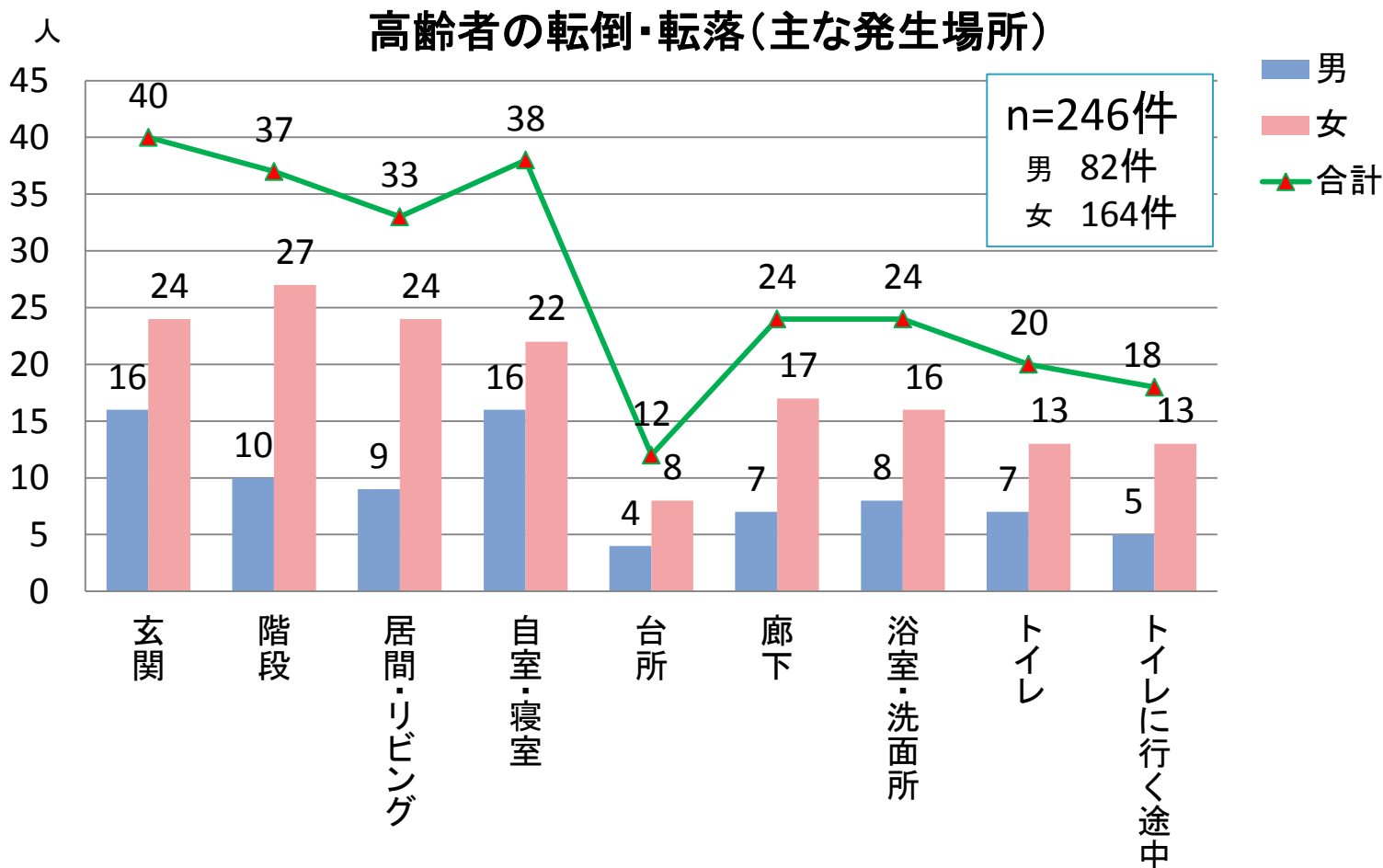


出典: 救急搬送データ(2008年~2013年)

データから見た客観的な危険(3)

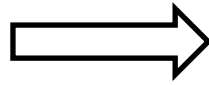
- ・自宅(屋内)で転倒・転落した場所は、「玄関」が最も多い。
- ・「階段」、「居間・リビング」、「自室・寝室」、「トイレ(または行く途中)」も多い。

図7

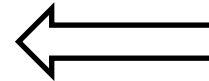


日本の住宅は段差がとても多い

例1 玄関の段差



例2 家の中の段差



データから見た客観的な危険(4)

- ・「1年以内に転倒したことがある」高齢者は22%
- ・「転倒に対する不安が大きい」と答えた人が47%

図8-1

1年以内に転倒したことがある
n=8,542人

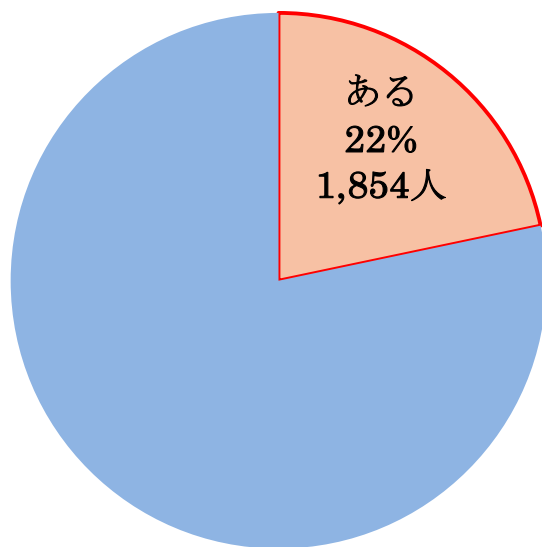
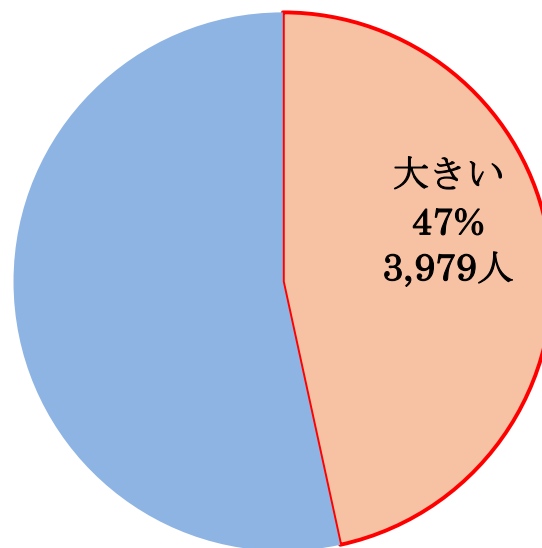


図8-2

転倒に対する不安が大きい
n=8,542人



出典：2011年介護保険二次予防事業対象者把握調査

データから見た客観的な危険(5)

- ・秩父市では、高齢者を対象に、生活機能の維持・向上を図り、各種講座を開催
- ・軽運動参加者は6年間で約900人で、高齢者のごく一部しかカバーできていない。

表1-1

○お達者塾参加状況（人）

	医師の講話	歌や軽運動	栄養・口腔改善	うつ・認知予防	計
2009年	130	131	37		298
2010年	29	151	62		242
2011年	49	91	85		225
2012年	35	33		29	97
2013年		398	82	279	759
2014年		127		26	153
計	243	931	266	334	1,774

表1-2

○介護予防普及啓発事業参加状況(人)

	秩父		吉田		大滝・荒川		計	
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
2011年	17	483	6	216			23	699
2012年	20	761	8	215	3	83	31	1,059
2013年	18	840	2	51	10	168	30	1,059
2014年	18	365	10	410	5	96	33	871

データから見た客観的な危険(6)

表2

地域で安心して暮らし続けるための支援活動として期待されていることは、「ひとり暮らし等の高齢者に対する支援」

(n=1158人)

項目	人数	%
ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人への声かけや話し相手	692	59.8
介護が必要な人や障がいのある人の短時間の預かり	263	22.7
乳幼児の短時間の預かり	199	17.2
子育てサロンなど子育て家庭の相談・仲間づくりの活動	247	21.3
高齢者が集える「ほっとサロン」などの活動	333	28.8
ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の買い物、ごみ出し等の手助け	459	39.6
ねたきり高齢者や障がいのある人のお世話	279	24.1
ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の庭の手入れや簡単な日曜大工	312	26.9
ひとり暮らし等の高齢者世帯や障がいのある人の緊急時の連絡・応対	530	45.8
福祉施設での手伝いや話し相手	218	18.8

出典：秩父市地域福祉に関する市民意識調査(2010年)

地域診断による課題の整理

課題1 高齢者は、自宅での「転倒・転落」による救急搬送件数が多い。

課題2 転倒について不安を感じている高齢者が多い。

課題3 ひとり暮らしの高齢者世帯が増加している。

課題4 支援を求めている高齢者が多い。

課題5 交通ルールを守ら(れ)ない高齢者が多い。

方向性
1

方向性
2

方向性
3

図3

図4

図5

図6

図7

表1-1

表1-2

図8-1

図8-2

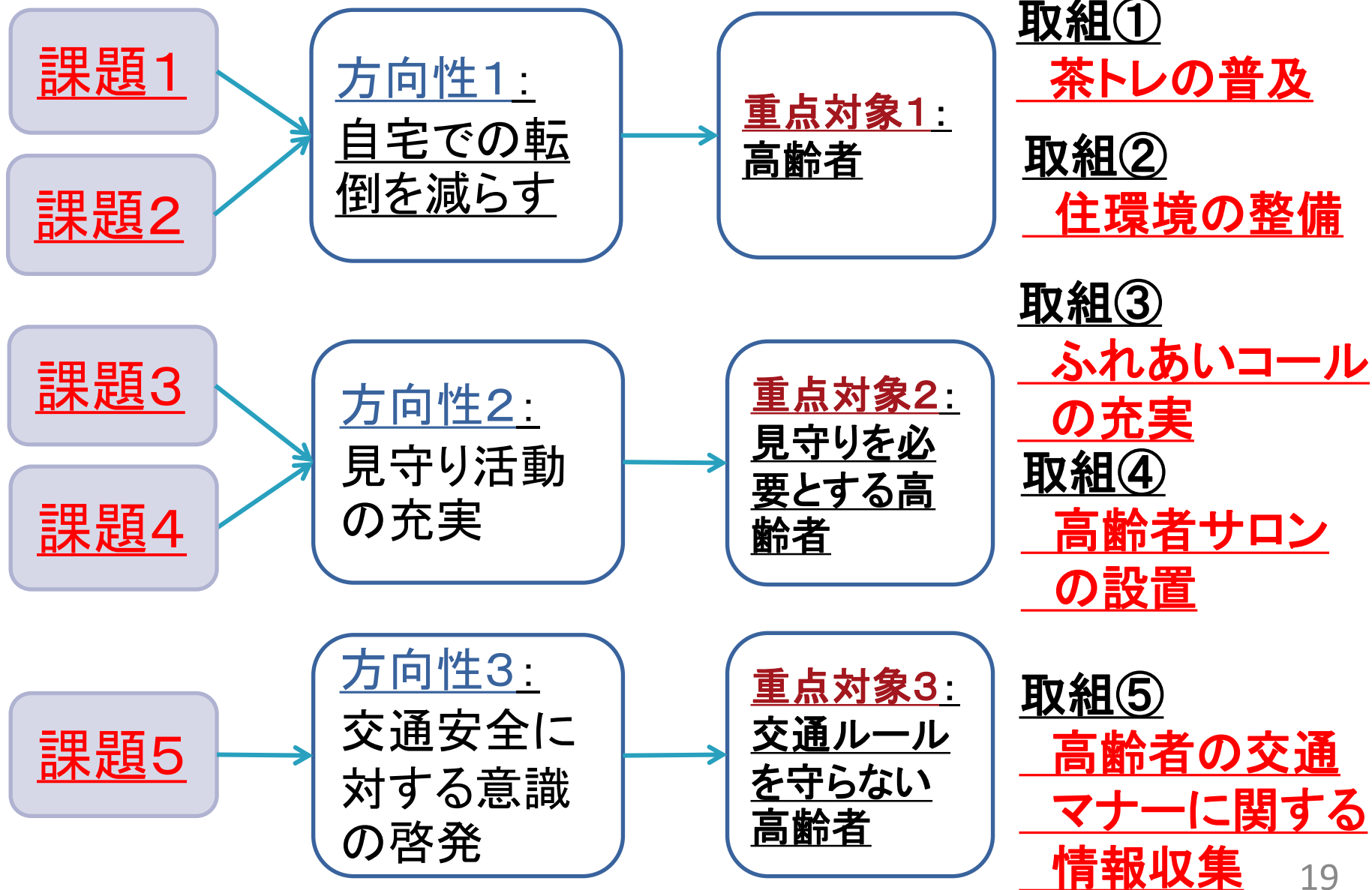
図1

図2

表2

データ
不足

課題、方向性、重点対象、取組の整理



高齢者の安全に係る取り組み一覧

	自宅での転倒予防	見守り活動	交通安全	虐待
予防・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ◎「茶トレ」の普及 <ul style="list-style-type: none"> ・「茶トレ」指導者の育成 ・各老人クラブで「茶トレ」の実践 ・ホームページでの掲載 ・「いきいきころばん」(筋力アップトレーニング教室 <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、ヘルパー等による高齢者世帯訪問の際の啓発 ・在宅介護支援センター 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ふれあいコールの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・回覧板を手渡するなど見守りの内容を濃くする ◎情報伝達方法の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全メール登録推進 ・防災無線内容確認電話「かくにんくん」の活用・周知 ・見守り活動参加者からの連絡 ・要援護者支援制度 ・敬老会 ・一人暮らし高齢者家庭調査 ・一人暮らし高齢者、高齢者世帯に配食 ・ふれあい訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域安全点検の実施 ・高齢者の交通に関するアンケート(高齢者の安全対策委員会で実施) ・プロドライバーに対するアンケート(交通安全対策委員会で実施) ・アンケート結果を交通安全教室に反映 ・交通安全教室 ・高齢者世帯訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止セミナー(県・市) ・秩父市包括支援センター(高齢者総合相談) ・警察相談 ・民生委員による訪問 ・高齢者虐待対応専門員研修(県・市)
環境	<ul style="list-style-type: none"> ◎住環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の交通に関するアンケート(高齢者の安全対策委員会で実施) ・転倒防止啓発リーフレットの作成・配布(アンケートに基づいたもの) ・住宅改修補助事業の周知・利用促進 ・ハンディキャブ ・車いすの貸し出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り協定の推進 ・緊急通報システム ・救急医療情報キット 		

高齢者を対象に自宅での転倒を減らす

新規

・取り組み①

「茶トレの普及」

1 概要

自宅に居ながら取り組める「ちちぶお茶のみ体操(通称:茶トレ)」を普及させる。

2 関係主体

市、民生委員、健康福祉員、在宅福祉員

3 活動実績(2014年)

2013年度	啓発チラシ	26,000枚(全世帯)配布
	茶トレ講習会	28回 776名
2014年度	茶トレ講習会	91回 2,065名
	モデルクラブでの測定	1クラブ 22名
2015年度	3町会で測定を実施	

4 SCを始めてからの変化

教室参加型では、高齢者全体をカバーできないため、茶トレの普及で高齢者全体をカバーする。



高齢者を対象に自宅での転倒を減らす

新規

・取り組み②

「住環境の整備」

1 概要

家庭内のケガの実態をアンケート調査し、結果を反映した啓発リーフレットを作成、配布し、住環境の整備を啓発する。

2 関係主体

市、民生委員、健康福祉員、在宅福祉員

3 活動実績(2014年)

2014年度 高齢者のケガの実態調査(対象500人)

2015年度 啓発チラシ作成・配布予定(東洋大学の協力)

4 SCを始めてからの変化

アンケートにより、高齢者の家庭内でのケガの実態を調査

見守りを必要とする高齢者を対象に見守り活動の充実

改善

・取り組み③

「ふれあいコールの充実」

1 概要

見守り活動を充実させるため、回覧板の手渡しを推進することで声かけの機会を増やす。

2 関係主体

市、町会、民生委員、健康福祉員、在宅福祉員、社会福祉協議会

3 活動実績

2014年度 ふれあいコール見守り対象者 1,750人(単身高齢者など)
郵便局との見守り協定締結(ほか31事業者と締結済み)
2015年度 ふれあいコール対象者に回覧板の手渡しを依頼

4 SCを始めてからの変化

回覧板を手渡しすることで、自然に隣人の様子を確認できる。



見守りを必要とする高齢者を対象に見守り活動の充実

改善

・取り組み④

「高齢者サロンづくり」

1 概要

地区単位で、高齢者が集まれるサロンをつくり、高齢者同士による見守りを行う場として活用する。

2 関係主体

市、町会、老人クラブ、民生委員、在宅福祉員、事業者、NPOなど

3 活動実績

2014年度 実態調査(モデル地区の事例収集)

2015年度 モデルサロンの募集・開設

4 SCを始めてからの変化

高齢者同士の見守りをしているモデルケースを他地域に拡大する。

交通安全に対する意識の啓発

新規

・取り組み⑤

「高齢者の交通マナーに関する情報収集」

1 概要

高齢者の家庭内のケガの実態調査に合わせて、交通安全意識等についてもアンケートを実施し、交通マナーに関して情報収集する。

2 関係主体

高齢者の安全対策委員会、各老人クラブ

3 活動実績

2014年度 アンケート実施 500人
高年齢者向け交通安全教室の開催
2015年度 調査結果を交通安全教室に反映

4 対策委員会の連携

高齢者→交通安全教室の参加者集め
交通→アンケートによる情報収集



交通安全対策委員会でも
プロドライバーに対する
アンケート実施

現地指導の際のアドバイス

アドバイス

①

データの収集を他の委員会に任せて、実践の段階で高齢者の委員会がイニシアティブを発揮するという協働の方法もある

対応

交通安全対策委員会 = タクシードライバーへのアンケート実施
高齢者の安全対策委員会 = 交通安全教室を開催(人集め)

アドバイス

②

日本の家屋は段差が多い、筋力アップだけでは限界がある

対応

高齢者アンケートを実施
家庭内の危険個所や改善方法を記載したマップを大学生の協力のもと作成中

取組

取組 1

対策:茶トレの普及

実施・関係者:市、民生委員、健康推進員、在宅福祉員

実施内容:自宅に居ながら少しの時間で取り組める「ちちぶお茶のみ体操(通称茶トレ)」を普及させる

改善点:新規取り組み



成果

成果 1

活動指標:茶トレ教室の開催回数、教室参加者数、茶トレ指導者数

短期的な成果:「茶トレ」の認知度

中期的な成果:「茶トレ」をしている人の増加

長期的な成果:転倒によるケガの減少



取組 2

対策:住環境の整備の啓発

実施・関係者:地域包括支援センター民生委員、健康推進員、在宅福祉員

実施内容:家庭内のケガの実態を調査し、啓発リーフレットを作成、配布し、住環境の整備を啓発する。

改善点:新規取り組み



成果 2

活動指標:啓発リーフレット作成・配布数
住宅改修補助

短期的な成果:家庭内危険箇所の認識割合

中期的な成果:家庭内危険箇所を改善した人の割合

長期的な成果:家庭内での転倒によるケガの減少

取組 3

対策:ふれあいコールの充実

実施・関係者:町会、民生委員、在宅福祉員、社会福祉協議会
秩父市

実施内容:回覧板を手渡しするなど見守りの内容が濃いものとなるように啓発する。

改善点:回覧板を手渡しすることで、無理なく隣人の様子を確認できる。



成果 3

活動指標:回覧板の手渡し、見守り手段の増加

短期的な成果:見守りする意識の向上

中期的な成果:近所付き合いなどの程度を向上させた人の割合の向上

長期的な成果:高齢者の不安の軽減

取組

取組 4

対策: 高齢者のサロンづくり

実施・関係者: 民生委員、在宅福祉員、老人クラブ、町会、事業者、
包括支援センター、市

実施内容: 地区単位で、高齢者が集まれるサロンをつくり、高齢者同士
による見守りを行う場として活用する。

改善点: 高齢者同士の見守りを実施しているモデルケースを他地域
に拡大する。



成果

成果 4

活動指標: 地域の高齢者サロンの実態調査
サロンの設置数

短期的な成果: サロンの設置数の増加

中期的な成果: サロンへの参加者の増加

長期的な成果: 高齢者の不安の軽減



取組 5

対策: 高齢者の交通マナー等に関するデータの収集、講習会の開催
(交通安全対策委員会と連携)

実施・関係者: 高齢者の安全対策委員会委員、交通安全対策委員会
委員

実施内容: 高齢者自身に対するアンケートを高齢者の対策委員会で実
施、プロドライバーに対するアンケートを交通安全対策委員
会で実施、収集したデータを反映した交通安全教室を交通
安全対策委員会と連携して実施

改善提案: 新規取り組み



成果 5

活動指標: 高齢者に対するアンケート(回収率)
プロドライバーに対するアンケート
交通安全教室開催回数

短期的な成果: 交通安全意識の向上

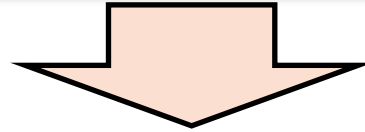
中期的な成果: 反射材を着用するなど安全行動
をした人数

長期的な成果: 高齢者の交通事故の減少

現在の状況と今後の方向性

苦労していること

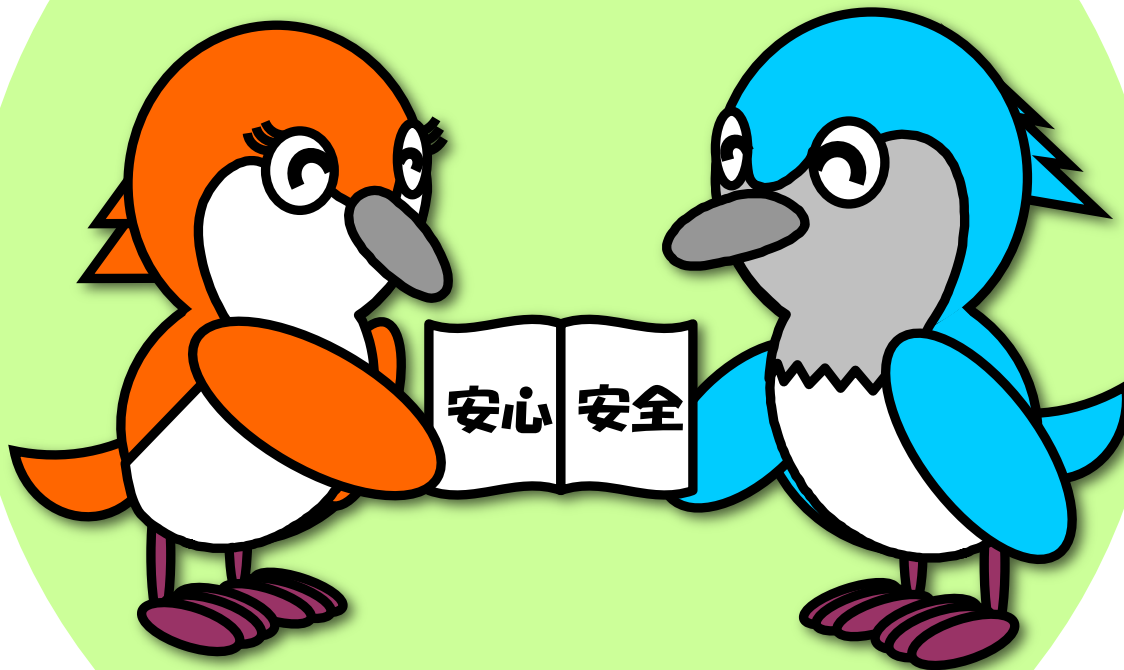
- * 家に引きこもっていて、活動に参加しない高齢者が多い
- * 住環境の改善には多額のお金がかかるので対策が進まない



今後の方向性

- * 元気な高齢者同士で見守りしあうサロンづくりを充実させる
- * 家庭内危険パンフレットを活用し、お金をかけずにできる取り組みを紹介する
- * 虐待の相談件数は今のところ少ないが、今後も注視する

セーフコミュニティ



秩父市

ありがとうございました！